

2012.10.15

「民主党の延命を助けるマスコミの二枚舌」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は10月15日であります。

本日、自民・公明・民主の幹事長会談が行われ、20分たらずで終了してしまいました。再び18日に会談を設けるそうですが、国会審議の日程は未だに決まっておりません。民主党政権の失策が招いた竹島・尖閣における国難、デフレ脱却の為の景気対策としての補正予算等の国内外での課題が山積しています。政権与党である民主党が国会を開き審議することは当たり前の話なのです。しかし、この当たり前の話すら出来ていないのです。なぜかといえば、国会を開いてしまうと解散を迫られますが、現時点で解散を行っても民主党には何の得にもなりません。つまり、解散を先送りするために国会を開かない、という論法が罷り通っているのです。

野田総理は「三党合意は有効である」と口では言っていますが、現にやることが違うのです。野田総理は政治生命を懸けると言って、三党合意で我々は消費税増税法案に賛成したのです。政治生命を懸けるというのは自分の総理大臣としての命と引き換えに法案を通して下さいということですから、法案が可決されたら、自分の命を差し出さなければなりません。つまり、解散総選挙を行い、国民に信を問わなければなりません。ところが、野田総理は命を懸けるということを何度も言っていますが、結局、命を懸けたのは谷垣総裁であり、

谷垣総裁が野田総理の言葉を信じ、三党合意を行い採決にまで至りました。しかし、近いうちに肝心の解散がなく、このことが今回の総裁選挙で谷垣総裁が出馬できなかった大きな原因になりました。

結局は「正直者が馬鹿をみる」ということになるわけです。政治の世界では「騙すよりも、騙される方が悪い」という、とんでもない駆け引きの論理が必要である、と言う人もいますが、私は違うと思っています。もちろん、政治には駆け引きも重要です。しかし、一番重要なことは、「言っている言葉に信があるかどうか」なのです。言葉に信用がなければ、たとえ一度、駆け引きで上手くいったとしても、最終的にそのことは大きな負けに繋がるのです。人を騙し、選挙で政権を獲ったとしても民主党は政権に対する信頼を失い、いつ選挙を行おうが勝てる見込みが全くない状況に陥ってしまいました。つまり、駆け引きでは民主党は勝ったけれども、政党として一番大事な信用を失ったのです。

彼らに残されている道は、多少なりとも良心や恥というものを持っていたら、今からでも信を問うべきです。信を問うのも正々堂々と問えば良いのです。野田さんは、自分たちが誤って財源のない約束をしてしまったけれども、今現在必要なのは社会保障を賄うためには国民負担率を上げる以外に選択肢はなく、国家を救うために国が主導した、と堂々と主張すれば良いのです。ところが、これを主張する様子が全くないのです。なぜかといえば、結局は民主党の中でまともに議論していないからなのです。議論して白黒つけていないために、選

挙が近づけば近づくほど離党者がでてくると思います。民主党の方々は、筋のないことを一方的に行う野田総理に付いていっても自分たちの未来があるとは思えず、自分たちの生き残りを考えて損得勘定に終始をしてしまうのです。そのような方々がどんどん増殖していけば、党をまとめることが不可能になります。党をまとめることができなければ自民党や公明党などの野党と話し合いをしようとしても、話し合いをする土台はないのです。民主党は機能不全に陥り、当事者能力がなくなっています。話し合いをする余地すらない、ということなのですが、政権を持っているのは民主党なのです。解散をすると決断をしない限り、任期満了までいってしまうのです。当事者能力がないから、解散をするという決断をせずに政権が長引くと言う、本当に皮肉なジレンマに陥ってしまっているという事なのです。結局は民主党政権という当事者能力のない方に政権を任せたことが全ての誤りなのです。自民党自身、このような方々に政権を獲られてしまったという能力不足な点を反省しなければなりません。

しかし、この状況を作った元凶はマスコミのあまりにも無責任な報道姿勢にあります。三年前の総選挙の際、一度政権を取り換えてみたらいいじゃないか、という非常に安易な考えがあらゆるマスコミで語られました。政権交代が起きて民主党政権になれば、政治主導でものすごく良い未来が来ると、まるで革命が起こったかのような大騒ぎをしていました。この最たるものが朝日新聞でしょう。それがどうなったかといえば、ようやく出来た鳩山内閣はたった一年も

もたなかったのです。菅、野田内閣と変わりましたが、どなたが総理になっても政権与党として機能不全の状態が続いています。本来は解散総選挙をもっと早く行わなければいけませんでした、そうはなりませんでしたが、政権の根本的な問題についてマスコミがまともにとりあげなかったからです。

政権というのは何をすべきなのでしょう。それは国民の生命と財産を守ることです。それができないのであれば、できる政権をつくらなければならないのです。しかし、その資格がない方が政権をとってしまったのです。加えて、この出鱈目政権を擁護してきたのがマスコミです。さらに、民主党の閣僚には外国人から献金を貰う人間が法務大臣、反社会勢力のナンバー2と親しい付き合いをして仲人までしている人間が財務大臣に選ばれています。このようなことが行われるのはマスコミが民主党の本質を報道せず、真実を知っている国民が少ないからなのです。民主党だけではなく、マスコミ自身も当事者能力が欠如してしまっている結果、社会不安をつくり出しているのです。一日も早くこうした状況を脱しなければならないと思っています。国会が一日も早く開かれて、一日も早く解散総選挙になる様に、これからも皆様方に真実を伝えていきたいと思います。今日も御覧になって頂きありがとうございました。